

脊椎後方固定術を受けられる患者さまへ

患者様用

患者氏名	様	受持医	受持看護師	受持理学療法士			
月日（日時）	/ /	/ /	/ /	/ /	/ /	/ /	/ /
経過（病日等）	入院日	手術当日	術後1日	術後2日～3日	術後4日～6日	術後7日～12日	術後13日
達成目標	◆入院、転院、手術の必要性を患者 O ◆退院基準を理解し、同意する ◆治療準備が整う	◆手術の準備が整っている ◆手術・麻酔の侵襲による換気不全がなく、循環動態が安定している ◆深部静脈血栓症の徴候がない ◆疼痛コントロールができる ◆髄液漏を起こさない ◆髄液漏を起こさない	◆深部静脈血栓症の徴候がない ◆疼痛コントロールができる ◆神経障害がない ◆循環障害がない ◆髄液漏を起こさない ◆介助にて座位保持ができる	◆深部静脈血栓症の徴候がない ◆疼痛コントロールができる ◆神経障害がない ◆循環障害がない ◆髄液漏を起こさない ◆ドレーンを抜去できる（術後2日） ◆介助にて歩行できる	◆深部静脈血栓症の徴候がない ◆疼痛コントロールができる ◆神経障害がない ◆循環障害がない ◆創部の感染兆候がない ◆介助にて歩行できる（術後4日まで） ◆歩行器で歩行ができる（術後5日～） ◆画像検査上異常所見がない（術後6日）	◆深部静脈血栓症の徴候がない ◆疼痛コントロールができる ◆神経障害がない ◆循環障害がない ◆創部の感染兆候がない ◆歩行器で歩行ができる（術後7日まで） ◆病棟内歩行ができる（術後8日以降） ◆治療方針が決定する	【退院基準】 ◆深部静脈血栓症の徴候がない ◆疼痛コントロールができる ◆神経障害がない ◆循環障害がない ◆創部の感染兆候がない ◆病棟内歩行ができる ◆退院後の生活について理解できる
治療・薬剤 （点滴・内服）	持参薬の確認をします	麻酔科医の指示で朝の内服薬の調整をします 術後点滴があります 術後より鎮痛剤の内服があります	術後1日目まで朝夕に抗菌薬の点滴があります 術後2日目まで食事前に吐き気止めの内服薬があります				
処置		術前より弾性ストッキングを装着します 手術後、血液の塊で神経を圧迫しないように創部に管を入れます。流れ出た血液を小さなパック内に出します 術後フットポンプを装着します	フットポンプを外します 足首の運動ができ、歩行が可能であれば弾性ストッキングを脱ぎます	術後2日目に創部の管が抜けます 	術後4日に創部の処置があります	術後7日保護シールを取ります その後は創部の観察のみです （消毒は不要です） 抜糸はありません 	
検査			血液検査があります		術後6日に血液検査とエックス線撮影を行います		
活動・安静度		手術が終わって3時間はベッド上安静です	術後2日間は創部に管が入っています が日常生活に制限はありません 理学療法士にて座位訓練を行います	術後2～4日目は理学療法士にて歩行訓練を行います	術後5日～7日歩行器にて歩行訓練を行います	術後8日目以降は病棟内歩行ができます	
食事	必要に応じて治療食となります	手術までは飲んだり食べたりできません 帰室3時間後、腹鳴確認後水分を摂取 できます 食事もできます	制限はありません				
清潔	男性はひげそりをしていただきます 必要に応じて手術部位の除毛を行います		体拭きをします。	体拭きをします。	術後4日目よりガーゼがとれ、保護シールになるとシャワー浴ができます	保護シールがはがれますが、そのまま入浴ができます	
排泄	排便の確認をします	手術後尿の管が入っています	尿の管が抜けてトイレでできます				
患者様及びご家族への説明 生活指導 リハビリ 栄養指導 服薬指導	麻酔科医師の診察があります 手術室看護師の訪問があります 理学療法士が術後の訓練の説明をいたします 看護師が入院生活について説明いたします 薬剤師が薬についての説明をいたします 治療食の場合は栄養士より食事療法についての説明があります 入院費に関するご心配がありましたらお早めに総合窓口⑥番にご相談ください	術後に主治医より説明があります	術翌日より病棟での訓練が始まります 術後2日目でリハビリ室にて歩行訓練を開始します 治療食の場合栄養士が食事について説明いたします			主治医より今後の方針（自宅退院が転院）について確認し、決定します 転院の場合は退院支援看護師にて転院調整を開始します 転院が決定次第、本人・家族へ連絡があります	看護師が退院後の生活の注意点について説明いたします

注：入院期間については現時点で予想される期間です。